

ねりま健育会病医院

地域連携室相談員 澤 良二郎

功 績 出勤途上の当院敷地外の路上でタクシーが捕まえられなくて困っている圧迫骨折であった女性に手助けし、タクシーを捕まえ、重い手荷物も搬入した。この女性からその後もコンタクトがあり、当院利用を促している。地域住民への親身な対応の典型例である（地域における当院評判を高めるもの）と共に病院経営への貢献も意識し対応した功績

推 薦 者 地域連携室主任 小松 智行

推 薦 理 由 人間として立派な行為をしても、つとめてひけらかすこともせずに、淡々と仕事をしていたが、女性からの手紙で、連携室で本事案を初めて知るところとなった。その謙虚さが素晴らしいし、当院のビジネスに繋げようとしている点より評価できる。理事長賞に値するものとして推薦します。

内 容

5月上旬のこと、朝8時30分過ぎの出勤前で急いでいたが、大泉学園バス通り沿いで、80代の女性が壁にもたれかかって、しゃがみ込みながら、携帯電話で助けを求めている。事情を聞くとこれからA病院で手術の上、入院することになっているということだった。携帯電話の相手は知り合いだったが、ヘルプを断られて、とても困っていた。病院の診療時間は10時30分とのことで切迫していたので、タクシーを呼んであげて、すぐ近くのご自宅と一緒にタクシーで行って、ご自宅に入り、入院用の重い荷物をタクシーまで運び、搬入した。6月に入り、女性が感謝して、当院に来院、手紙を渡しに来た。その際に、今後のリハビリについて相談に乗った。ご本人はスティックを使っての自立歩行。リハビリを希望しているが、入院は拒否、また外来リにも後ろ向きであった。B町で独居。子供は3人で長男はパリ在住。長女は皮膚科の医師で次女も精神科の開業医。経済的に恵まれ、介護認定もない。改めて自費で訪問リを働きかける予定。